



第 7 6 号

発行者
関東壬子会
会報幹事



＜九州大学 伊都キャンパス＞

目 次

1.	令和3年総会報告	P 2
2.	令和3年事業報告	P 4
3.	関東壬子会活性化方策（案）の検討	P 7
4.	理事会名簿・幹事会名簿	P 9
5.	名簿更新のお願い	P 13
6.	会員の近況報告	P 14

《関東壬子会会報発行にあたり》

本年も新型コロナウイルスによる影響で様々な活動を自粛する形となり、令和4年新年会も中止させて頂くこととなりました。何卒、ご理解のほど宜しくお願いします。

今回の会報では、一部の会員にご協力賜り、コロナ禍による業務の変化等をご紹介させて頂く企画を設けましたので是非ご覧ください。会員皆様におかれましては、引き続き、積極的な活動へのご参加、会費のご入金等の協力を何卒よろしくお願いいたします。

1. 令和3年総会報告

令和3年総会は、令和3年1月20日（水）にオンラインにて開催しました。当日は、戸田新副会長（S53 卒）及び宇田川新理事長代理（S55 卒）をご紹介するとともに、令和2年の会計報告、令和3年の事業計画及び予算案のご承認を頂きましたのでご報告します。

令和2年会計報告（令和2年1月～令和2年12月）

科目	① 当初予算（円）			② 決 算（円）			差引(円)	備 考
	収 入	支 出	差 引	収 入	支 出	差 引	②－①	
前期繰越金	1,065,664	0	1,065,664	1,065,664	0	1,065,664	0	
学生見学会積立金	0	0	0	0	0	0	0	
銀行利息	10	0	10	3	0	3	▲ 7	
年 会 費	390,000	0	390,000	510,000	22,366	487,634	97,634	実績：普通会費 170名
壬子会本部補助金	100,000	0	0	100,000	0	100,000	100,000	2020年分
会 合 費								
総 会	550,000	550,000	0	472,000	418,410	53,590	53,590	76名参加(昨年78名)
臨時総会	0	0	0	0	0	0	0	
理 事 会	0	60,000	▲ 60,000	0	20,608	▲ 20,608	39,392	実績：2回開催
幹 事 会	0	30,000	▲ 30,000	0	0	0	30,000	実績：1回開催(WEB)
例 会	200,000	200,000	0	0	973	▲ 973	▲ 973	実績：0回開催
ゴ ル フ	0	30,000	▲ 30,000	0	0	0	30,000	
囲 碁	0	30,000	▲ 30,000	0	0	0	30,000	
ひまわり会	0	30,000	▲ 30,000	0	0	0	30,000	
活性化活動	0	30,000	▲ 30,000	0	0	0	30,000	
							0	
会報発行費							0	
会報印刷	0	50,000	▲ 50,000	0	0	0	50,000	※電子化
発送費用	0	100,000	▲ 100,000	0	0	0	100,000	※電子化
							0	
学生見学会準備費	0	0	0	0	0	0	0	
学生見学会積立金	0	200,000	▲ 200,000	0	200,000	▲ 200,000	0	
事務費								
通信・交通費	0	5,000	▲ 5,000	0	0	0	5,000	
事務用品・雑費	0	5,100	▲ 5,100	0	4,000	▲ 4,000	1,100	学士会館会員費
今期合計	1,240,010	1,320,100	▲ 80,090	1,082,003	666,357	415,646	595,736	
次期繰越	985,574			1,481,310				

平成3年予算（案）（令和3年1月～令和3年12月）

科目	予算（円）			R02(実績)(円)	備 考
	収 入	支 出	差 引	差 引	
前期繰越金	1,481,310	0	1,481,310	1,065,664	
学生見学会積立金	200,000	0	200,000	0	
銀行利息	10	0	10	3	
年 会 費	510,000	23,000	487,000	487,634	約170人(見込み)
壬子会本部補助金	100,000	0	100,000	100,000	
会 合 費					
総 会	0	0	0	53,590	Web会議
臨時総会	0	0	0	0	R03関西開催予定
理 事 会	0	30,000	▲ 30,000	▲ 20,608	2回開催予定
幹 事 会	0	30,000	▲ 30,000	0	1回開催予定
例 会	200,000	200,000	0	▲ 973	5回開催予定
ゴ ル フ	0	30,000	▲ 30,000	0	例会延べ150人(見込み)
囲 碁	0	30,000	▲ 30,000	0	
ひまわり会	0	30,000	▲ 30,000	0	
活性化活動	0	30,000	▲ 30,000	0	
会報発行費					
会報印刷	0	0	0	0	電子化
発送費用	0	0	0	0	電子化
学生見学会準備費	0	0	0	0	R03関西開催予定
学生見学会積立金	0	0	0	▲ 200,000	
事 務 費					
通信・交通費	0	5,000	▲ 5,000	0	
事務用品・雑費	0	5,000	▲ 5,000	▲ 4,000	
今期合計	1,010,010	413,000	597,010	415,646	
今期収支		597,010			
次期繰越	2,078,320				

2. 令和3年事業報告（令和3年1月～令和3年12月）

令和3年度は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での活動が制限されましたが、例会をはじめとしてweb会議形式を最大限活用しました。

（1）定例理事会

第1回 令和3年1月20日(水) 18:00～ 於: Zoom (オンライン)

第2回 令和3年9月8日(水) 18:00～ 於: Microsoft teams (オンライン)

（2）総 会

総 会 令和3年1月20日(水) 18:00～ 於: Zoom (オンライン)

新年会 中止

（3）例 会

関東壬子会例会は、1月を除く奇数月の第2水曜日19:00～20:00に、学士会館（東京都千代田区神田錦町）にて開催することを基本としておりますが、コロナ禍により、昨年は未開催となりました。

令和3年は情勢を踏まえ、オンライン開催を試行いたしました。講師の皆様も試行にご協力いただき、これまでのご経験を通じた示唆や九州大学での取組、国土交通行政の昨今の話題など、「関東壬子会例会ならではの」幅広い講演内容となりました。オンラインはコロナ禍でも開催ができ、遠方の方やご多忙な中でも参加可能といったメリットがある一方で、質疑や議論が対面に比べると薄く、講演会後の懇親会という更に知見を深める場が持てないデメリットがありました。引き続き、諸情勢も見ながら、皆様のスキルアップ、自己啓発に資する講演が開催できるよう努めて参ります。若手会員の方々を含め、皆様により一層ご参加頂きたく、ぜひ同期や後輩への呼びかけをよろしくお願い致します。

《令和3年の例会の報告》

【第169回例会（令和3年3月10日(水)）】

講 師：牧野 浩志（平成元年年卒）

国土交通省 道路局国道・技術化道路技術分析官

演 題：道路の老朽化問題と新技術導入の取組

講演概要：

2012年笹子トンネル事故を契機に加速化した老朽化対策の取組について、2019年度で1巡した道路構造物の点検結果について報告がありました。点検は概ね完了したことが報告され、課題として、点検結果を踏まえた緊急補修について特に地方自治体管理施設の補修着手が低調となっている点の指摘がありました。この点について、予算確保や発注支援・技術支援などの緊急補修着手に向けた支援を行い、道路構造物補修推進策についてご紹介いただきました。

また、今後の点検2巡目に向け、損傷や構造特性に応じた点検対象の絞り込みや新技術の活用による点検方法の効率化の方針について、幅広くご紹介いただきました。

【第170回例会（令和3年7月14日（水））】

講師：今石 尚（昭和56年卒）

大成建設(株) 土木本部 技師長

演題：「海底をわたる風」～Railway Bosphorus Tube Crossing Tunnels and Stations～

講演概要：

トルコ人150年の夢であるアジアとヨーロッパを結ぶ海底トンネルである「トルコ国ボスポラス海峡横断鉄道プロジェクト」を取り上げ、世界遺産区域におけるトンネル工事において、世界初となる沈埋函とシールドトンネルの直接接合など技術的な課題解決事例をご紹介いただくとともに、海外工事特有の現地政府との契約交渉や地上建築への対応など、ご経験されたODAならではのご苦労とそこから得られた知見・教訓をご紹介いただきました。

【第171回例会（令和3年9月8日（水））】

講師：佐川 康貴（平成10年卒）

九州大学大学院工学研究院 社会基盤部門准教授

演題：コンクリート構造物の長寿命化と低炭素化

講演概要：

コンクリート構造物の長寿命化の取り組みとして、九州大学と九州地方整備局等関係者が共同して作成した「九州基準」についてご紹介がありました。また、地方におけるインフラメンテナンスの事例として、小規模な補修は自治体職員自らがを行い。大規模な補修に予算を重点化する取り組み事例を紹介いただきました。低炭素化の取り

組みとしては、炭酸カルシウムを焼成して作られるセメントのCO2排出量は一定の量があり、削減の余地があることを踏まえ、混和材の使用によるCO2削減やジオポリマーコンクリートなど最新の研究について情報提供いただきました。また、令和3年度から土木工学科へ改称した九州大学本学の状況について、ご報告いただきました。

【第172回例会（令和3年11月10日（水））】

講 師：安部 賢（平成3年卒）

国土交通省 港湾局 計画課長

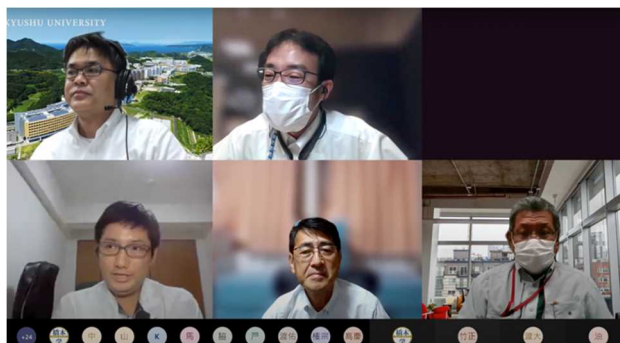
演 題：港湾のグリーン政策

講演概要：

日本の脱炭素化政策における港湾分野での取り組み状況をご紹介いただきました。港湾区域において水素・アンモニア等の活用に取り組むカーボンニュートラルポートや、港湾事業で発生した浚渫土を利用した藻場の形成（ブルーカーボン）などの既存港湾における取組のほか、大型化が進む洋上風力発電について、日本における導入促進に向けた環境整備として、港湾法の改正や基地港湾の整備など各地で進められる様子を報告いただきました。



第170回例会の様子（右上が今石講師）



第171回例会の様子（左上が佐川先生）

（４）ゴルフコンペ

コロナ禍のため中止（未開催）

（５）囲碁会

コロナ禍のため中止（未開催）

（６）ひまわり会

コロナ禍のため中止（未開催）

3. 関東壬子会活性化方策（案）の検討

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、関東壬子会の活動が制限されました。このような環境の中でも、関東壬子会の活動を活性化すべく、理事会等で検討している活性化方策の方向性について、ご報告いたします。

I. 活性化の基本方針

- (1) ウィズコロナに対応した運営方式への転換
- (2) 若手会員等を対象とした活性化方策
- (3) 活性化に必要な安定的な予算確保

II. 活性化を図るターゲット

○現在の活動に対する会員の状況は、

- A：そもそも関心がなく参加していない
 - B：関心はあるが、きっかけあるいは時間がとれない
 - C：積極的に参加
- と大まかに分類できるが、今回の検討では主にBを対象とする

III. 具体的な活性化方策の検討

(1) ウィズコロナに対応した運営方式への転換

- ①理事会、例会等について web 方式での開催を検討
 - ＜メリット＞
 - ・参加しやすい、会場費用が低減
 - ※土木学会全国大会では web 講演にしたことから聴講者が大幅増
 - ＜デメリット＞
 - ・収入がない、懇親会など対面での活動ができない
- ②理事会、例会については、休暇を取得等しなくても参加しやすいように開催時間を遅くすること（例えば 19 時から）を検討
- ③総会は、必要最小限の人数で行い、web 配信を行う。

(2) 若手会員等を対象とした活性化方策

- ①まずは知ってもらう取組
 - ・総会や例会（懇親会）などの情報発信
- ②総会や例会について学年当番制を導入
 - ・隔年の学生研修会で実施している学年当番制を総会や例会にも拡大
- ③女性会員の活動活性化
 - ・女性会員による「ひまわり会」の活性化について、まずは Web 会議での意見交換

（３）活性化に必要な安定的な予算確保

① 会費納入の増加方策

- ・口座振替、自動送金、クレジットカード払いの可能性検討
- ・あわせてインセンティブ（割引）の検討
- ・会報（電子）にＱＲコード決済の掲載を検討
（参考）

※昨年度会費納入者 131 名：年間 393,000 円（潜在的会員 1,000 名）

Ⅳ．その他（予算確保後の活性化等）

- ・例会の参加者数の増大を図るため、ＣＰＤ付与制度の導入や土木以外の分野の講師の開催を検討
- ・様々な活動や会費納入のベースとなる関東壬子会の名簿の充実を図る

Ⅴ．検討の進め方

- ・活性化方策を具体化、実行に移すために、プロジェクトチームで web 会議により議論開始

＜年会費の振込方法＞

令和２年度から、会報が電子化されることになりました。これに伴い、振込用紙を送付しませんので、年会費の納入は以下のいずれかの方法でお願いいたします。恐れ入りますが振込手数料につきましては会員各位の負担でお願いします。なお、振込人（および卒業年度）がわかるようお願い致します。年会費は¥3,000/人です。

① 関東壬子会総会受付での納入

総会の受付窓口にて年会費の納入も受け付けておりますのでご活用ください。

② 郵便口座への振込

ゆうちょ銀行からの振込

口座番号：00130-2- 118919

口座名義：関東壬子会

他金融機関からの振込

金融機関：ゆうちょ銀行 〇ー九（ゼロイチキュウ）店（019）

口座番号：当座 0118919

口座名義：関東壬子会

② 銀行口座への振込

金融機関：三井住友銀行 飯田橋支店（店番 888）

口座番号：普通 7017705

口座名義：関東壬子会 総務幹事 仁井克明

4. 理事会名簿・幹事会名簿

関東壬子会 理事会名簿

令和3年11月1日

卒年	氏 名	勤 務 先	備 考
47	小 野 俊 雄	(株)安藤・間	会 長
51	久 松 博 三	日本道路(株)	副 会 長
53	戸 田 和 彦	前田建設工業(株)	副 会 長
55	宇田川 博行	成和リニューアルワークス(株)	理 事 長 代 理
56	山 口 和 之	(一財)国際臨海開発研究センター	
57	秀 島 哲 雄	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング	
57	重 光 達	大成建設(株)	
58	吉 次 善 望	(株)オリエンタルコンサルタンツ	
58	馬 場 隆 之	東亜建設工業(株)	
59	加 藤 和 彦	清水建設(株)	
59	原 浩	東京埠頭(株)	
60	榎 村 康 史	(一財)日本建設情報総合センター	
60	片岡 希 誉 司	(株)フジタ	
61	宮 崎 祥 一	(一財)沿岸技術研究センター	
61	田 澤 秀 明	(株)アフターフィットエンジニアリング	
62	脇 長 正	J F Eエンジニアリング(株)	
62	森 山 正 明	パシフィックコンサルタンツ(株)	
63	東 島 義 郎	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所	
63	杉 尾 俊 治	独立行政法人水資源機構	
H1	牧 野 浩 志	(一財)国土技術研究センター	
H1	古 川 幸 則	(株)安藤・間	
H2	吉 田 敏 晴	埼玉県三郷市	
H2	宮 島 正 悟	京都大学	
H3	権 藤 宗 高	国土交通省 鉄道局	
H3	片 岡 賢 司	東日本旅客鉄道	
H4	原 野 崇	国土交通省 国土技術政策総合研究所	
H4	海老原 俊 広	J F Eエンジニアリング(株)	
H5	油 島 栄 蔵	(株)大林組	
H5	岡 田 知 也	国土交通省 国土技術政策総合研究所	

卒年	氏 名	勤 務 先	備 考
H6	井 上 徹 教	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所	
H6	阿 部 浩 二	西松建設(株)	
H7	多 田 智 和	国土交通省 国土交通政策研究所	
H7	山 路 徹	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所	
H8	馬 場 智	国土交通省 港湾局	
H8	林 規 夫	五洋建設(株)	
H9	西 崎 朋 和	大成建設(株)	
H9	青 木 一 也	(株)パスコ	
H10	北 村 隆 宏	西松建設(株)	
H10	高 畑 栄 治	国土交通省 関東地方整備局	
H11	中 川 慎 司	J F E エンジニアリング(株)	
H12	佐 溝 圭 太 郎	国土交通省 航空局	
H12	清 水 崇	国土交通省 関東地方整備局	
H13	石 崎 美 代 子	国土交通省 関東地方整備局	
H13	橋 本 学	鹿島建設(株)	
H14	仁 井 直 子	(株)竹中土木	
H14	山 内 真 也	鉄建建設(株)	
H15	津 島 博 志	日本工営(株)	
H15	倉 富 樹 一 郎	国土交通省 近畿地方整備局	
H16	柴 田 勝 史	(株)ブレック研究所	
H16	田 中 陽 子	墨田区 都市整備部	
H17	久 岡 夏 樹	国土交通省 水管理・国土保全局	
H17	奥 田 大 樹	鉄道総合技術研究所 交通計画研究室	
H18	山 口 正 裕	国土交通省 国土技術政策総合研究所	
H18	小 川 裕 樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所	
H19	伴 野 雅 之	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所	
H19	忽 那 惇	東亜建設工業(株)	
H20	末 益 大 嗣	国土交通省 水管理・国土保全局	
H20	河 村 直 哉	国土交通省 国土技術政策総合研究所	
H21	奥 中 智 行	国土交通省 大臣官房	
H21	北 村 俊 樹	大成建設(株)	
H22	三 好 朋 宏	国土交通省 国土技術政策総合研究所	
H22	牧 浩 隆	東京都 建設局	

卒年	氏 名	勤 務 先	備 考
H23	大 谷 優 衣	(株)建設技術研究所	
H23	穴 戸 敏 孝	東京都 建設局	
H24	渡 邊 佑 輔	国土交通省 港湾局	
H24	酒 匂 一 樹	国土交通省 九州地方整備局	
H25	大 山 璃 久	国土交通省 中国地方整備局	
H25	川 上 司	国土交通省 総合政策局	
H26	新川 登志朗	東京都総務局	
H26	北 川 洋 平	国土交通省 水管理・国土保全局	
H27	横江 れんげ	国土交通省 道路局	
H27	吉 武 竜 馬	国土交通省 水管理・国土保全局	
H28	佐 藤 文 哉	国土交通省 港湾局	
H28	高 橋 慶	国土交通省 国土政策局	
H29	白 石 萌 美	国土交通省 道路局	
H29	別 府 篤 人	国土交通省 水管理・国土保全局	
H30	渡 邊 大 貴	国土交通省 大臣官房	
H30	藤 川 貴 弘	五洋建設(株)	

R1以降の幹事については現在候補者へ確認中

関 東 壬 子 会 幹 事 名 簿

幹 事 名	年次	氏 名	職 場 名
幹 事 長	H3	権藤 宗高	国土交通省 鉄道局
総 務	H12	仁井 克明	五洋建設（株）
	H13	橋本 学	鹿島建設（株）
（活 性 化 担 当）	H17	久岡 夏樹	国土交通省 水管理・国土保全局
幹 事 会 （例 会）	H5	油島 栄蔵	（株）大林組
	H5	松村 一郎	（株）不動テトラ
	H21	坂井 健太	（独）国際協力機構
総 会	H13	中嶋 周作	電源開発（株）
	H15	祝井 健志	清水建設（株）
会 費・名 簿	H4	南部 俊彦	JFE エンジニアリング（株）
	H15	津島 博志	日本工営（株）
会 報	H8	編集長 馬場 智	国土交通省 港湾局
	H24	渡邊 佑輔	国土交通省 港湾局
ひ ま わ り 会	H15	岡峰 奈津美	（株）建設技術研究所
	H16	田中 陽子	墨田区 都市整備部
ゴ ル フ	53	齋藤 裕一	（株）近藤海事
	55	小山 文男	大成建設（株）
囲 碁	55	川井田 芳紀	日起建設（株）

「壬子会名簿」更新のお願い

- 関東壬子会では、あらゆる活動の基盤となる会員名簿の再構築に取り組んでいます。
- 会員の皆様におかれましては、壬子会本部名簿の確実な更新をお願いします。
(本部名簿の更新内容は関東壬子会名簿にも反映されます。)



壬子会ホームページ

URL <http://jinshikai.info/>

- ウェブ上では常時、名簿を更新可能です。
- ご利用には会員 ID／パスワードが必要です。ご不明な場合は壬子会事務局にお問い合わせください。

電話・FAX 092-807-0950 / メールアドレス jinshikai@doc.kyushu-u.ac.jp



コロナ渦による業務の変化と新たな取り組み

竹下 昭博

鉄道・運輸機構 工務部 工務第一課長

1. はじめに

「新型コロナウイルス感染症」は、2020年1月に日本国内で最初の感染者が確認されました。2月には、横浜港に帰港した大型客船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客乗員から感染者が確認され、テレビや新聞では連日、乗客乗員の感染状況や船内隔離の是非等について大きく報道されました。横浜湾を見渡せる私の職場から、この大型客船の姿が見えていましたが、この時は、この後、市中感染が拡大し、マスクが店頭から消え、東京オリンピックが延期となり、全国に緊急事態宣言が発令され、「新しい生活様式」が日常になるとは、想像もしていませんでした。窓から見える大型客船を、テレビの中の出来事のように、仕事の合間に眺めていました。

2. 業務の変化

この「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大は、鉄道・運輸機構の働き方にも大きな影響を与えました。新型コロナウイルスの感染予防として3密（密閉・密集・密接）を避けるため、出勤時や勤務中のリスクを回避する取り組みが導入されました。

まず、業務に重大な支障がない範囲内で、職場に出勤する職員の数を可能な限り3割程度とする体制を目標とし、接触機会の低減に向け、在宅勤務や時差出勤に取り組むことになりました。また、部内の会議等については、開催は真に必要なものに限定し、実施する場合も最低限の人数・時間で行うこととし、開催に当たっては、オンラインでの開催やマスクの着用等、新しい生活様式等に留意の上、実施することになりました。

3. 新たな取り組み

建設業界では遠隔臨場など工事へのDXの導入に向けた各種取組が積極的に行われています。鉄道・運輸機構の工事においても、一部工事で遠隔臨場を試行してきましたが、未だ十分な取組にまでは至っていないのが現状です。そこで、コロナ渦を受けて、遠隔・非接触の働き方への転換をスピードアップさせるべく、遠隔臨場の本格導入を目指し、鉄道・運輸機構の北海道新幹線建設工事においてモデル工区を設定して各種技術の実証を年内に開始することになりました。

4. おわりに

お酒を飲みながら職場の仲間と親交を深める「飲みニケーション」の支持率が急落しているようです。日本生命保険の調査では「不要」との回答が6割だったとのこと。「飲み会」への意識もコロナ渦における変化の一つのようです。

遠隔臨場のモデル工区での取組とICT推進チームについて  鉄道・運輸機構

【遠隔臨場とは】
・ウェアラブルカメラ等による映像と音声の双方向通信を使用し、
遠隔（リモート）で立会を行うもの
※ウェアラブルカメラ等には、ヘルメット等に装着可能なデジタルカメラに加え、スマートフォンやタブレット等のモバイル端末も含む。

【現場状況（撮影）】   ライブ配信

【機構でのこれまでの実施例】
コンクリート圧縮強度試験立会、材料検収（寸法確認等）
工場検査（遠隔地）等

【モデル工区での取組事項】
北海道新幹線建設工事では約8割がトンネルであり、かつ通信環境の悪い長大トンネルが多いという特徴がある。そのため今後の工事全般への適用拡大を目指し、モデル工区にてトンネル工事での遠隔臨場の実証確認を年内に開始する。

○ モデル工区…渡島トンネル（上ノ湯工区）
○ 遠隔臨場による確認項目

- ・坑外及び坑内測量への適用性（検測精度、位置ずれ等の確認）
- ・支保工の品質施工管理への適用性（現場配合試験、吹付け厚検測、ロックボルトの定着等の確認）
- ・覆工の品質施工管理への適用性（内空寸法、型枠状態、目地の状況、覆工厚検測、打音検査状況等の確認）

【ICT推進チームでの取組事項】
・11月4日に本社内にICT推進チームを設置
・モデル工区で実施する遠隔臨場の確認項目の精査と開始後の実証フォロー
・遠隔臨場以外も含めてのICTの最新技術の調査
・ICTを活用した工事へのDX導入拡大の検討
・本社技術企画部に機構内、受注者双方を対象とした遠隔臨場の相談窓口を設置し対応
相談窓口連絡先：技術企画部技術企画課 TEL 045-222-9063

 Japan Railway Construction, Transport and Technology Agency

※詳細は鉄道・運輸機構のホームページをご覧ください。

<https://www.jrnt.go.jp/>



直轄工事における新型コロナウイルスへの対応

藤浪 武志

国土交通省大臣官房技術調査課
事業評価・保全企画官

1. はじめに

現職では、国交省直轄土木工事の積算や施工の基準を担当しています。公共工事は、政府の基本的対処方針で、新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも継続が求められる事業と位置付けられており、異動した直後の私の仕事は、コロナ禍で公共工事を継続するための対策を検討することでした。本稿では、直轄工事における感染拡大防止対策をご紹介します。

2. 緊急事態宣言を踏まえた感染防止対策の徹底

国交省では、感染拡大防止対策を徹底しつつ直轄工事等を推進するため、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出された際も、各地整等に建設現場の3密回避に向けた取組を指示するとともに、SNS等により感染防止対策の好事例の普及・展開を図りました。その際、感染防止対策に要する費用は、受発注者間で設計変更の協議を行い、発注者が適切に負担することとしました。また、建設現場等の実態に応じた感染防止対策を行う際の基本的事項を整理した「建設業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を作成し、業界団体に周知する等の対応を行いました。現場の尽力のおかげで、直轄の工事現場では大きなクラスターもなく事業を継続することができました。

3. インフラ分野のDXの推進

今般の感染症対策の徹底は、建設生産システムを感染症にも強い構造に変革する契機にもなっています。

国交省では、非接触・リモート型の働き方への転換と生産性向上を図るため、インフラ分野のDXを推進しています。例えば、これまでは受発注者

ともに施工現場へ出向いて工事の進捗確認等を行ってきましたが、感染症拡大を受け、IoT技術等を活用し遠隔地から監督検査等を行う遠隔臨場を進めています。遠隔臨場では、施工現場に必要最小限の人員を配置すれば、他の受発注者の担当者はオンラインで参加することができ、現場の3密や感染拡大防止に繋がります。また、日程調整の簡素化や移動時間の削減、立会待ちによる施工時間のロスを防ぐなど業務効率化が期待できます。令和2年度は約720件の工事で試行しましたが、令和3年度は更に実施件数を増加する見込みです。

4. 最後に

労働集約型の産業である建設業は、現場に多くの人が集まって工事目的物を造り上げていくことが通常であり、自ずと対面での調整や密での作業が生じる傾向にありました。今般の感染拡大は、こうした我々の常識に対して、「3密の回避」など新たな課題をつきつけました。新型コロナウイルス感染症が収束しても、インフラ分野のDX化の流れを止めてはなりません。非接触・リモートを前提としたこれらの取組は、建設業を従来型の3K（「きつい」「きたない」「危険」）から新3K（「給料」「休日」「希望」）に変革する可能性を秘めています。災害が頻発化・激甚化する中で、国民の安全・安心の確保を担う建設業の役割は増大しています。持続可能な建設業を実現するためにも、これを機に、建設業の働き方を変革し、建設業の魅力を一層高め、中長期的な担い手確保を推進していく所存です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に係る設計変更

(設計変更の対象とする対策の例)



「3密」の中での打合せ
⇒現場事務所の拡張



インカム



シールドヘルメット



消毒液の設置



赤外線体温計



作業時のマスク着用



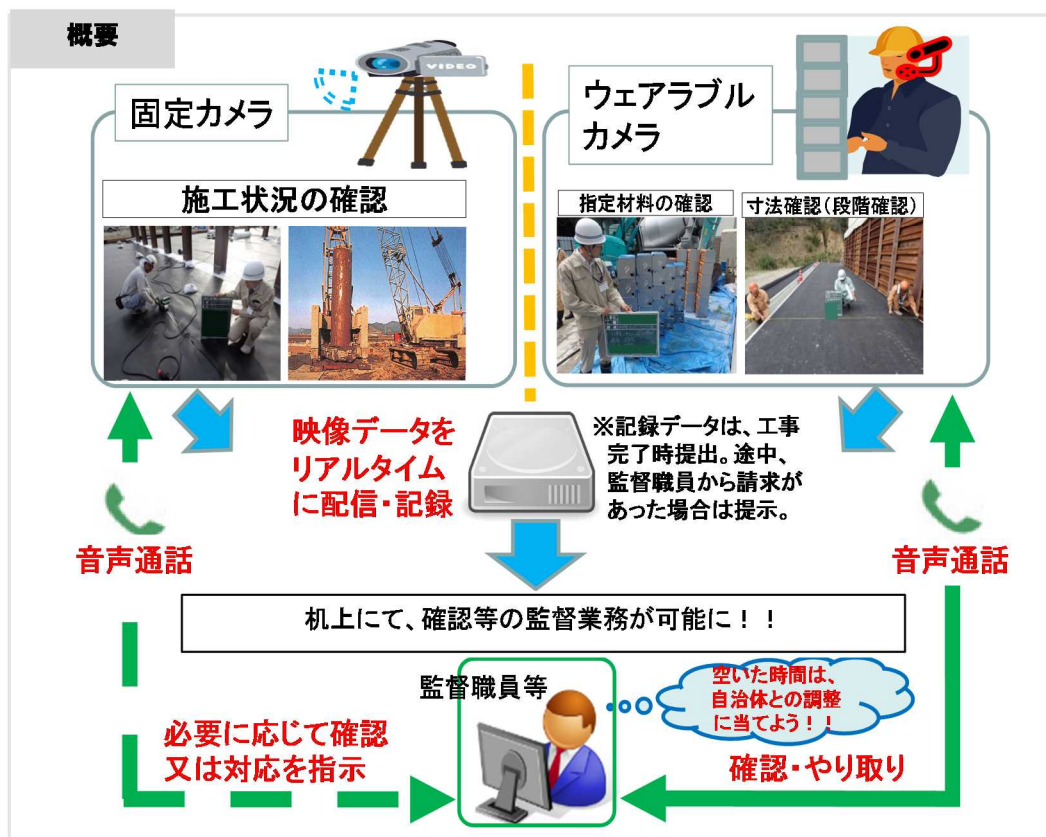
労働者宿舎（↑外観、
→共用スペース）
⇒近隣宿泊施設の確保



Webカメラを活用した
遠隔による現場確認



遠隔臨場による監督・検査





コロナ禍中のミャンマー勤務

滝川 尚樹

在ミャンマー日本国大使館 一等書記官

1. はじめに

黄金色に輝くパゴダ（仏塔）が林立するミャンマーに赴任し、二年八ヶ月が経過しました。私は国土交通省からの出向という形で、現在、在ミャンマー日本国大使館に勤務しています。昨年来、新型コロナウイルス感染症のパンデミックや政変等が発生し、少しでも波瀾万丈の在外勤務生活を送っていますが、その一端を紹介させていただきます。

2. 在ミャンマー大使館での仕事内容

邦人保護、査証発給、各種届の提出等、いわば海外での「何でも行政窓口」が、一般的な大使館の仕事のイメージだと思いますが、これは大使館の業務のひとつであり、他にも広報や日系企業支援など、大使館の業務は多岐にわたります。

私は経済協力班というチームに所属しており、主に運輸関係の ODA 事業に関する相手国との調整（相手国のニーズ聞き取り、各種会議への日本側担当者としての出席等）、ミャンマーで活動する日本企業の支援（経済関連情報の提供や、各種ミャンマー政府への働きかけ等）等が主な仕事です。

3. ミャンマーにおける新型コロナウイルス感染症の拡大

世界中で新型コロナウイルス感染症による混乱が生じていますが、ミャンマーもその例に漏れず、大きな影響を受けています。特に、昨年の三月末、急遽、商業便の着陸禁止措置が発表されたことで、当地在留邦人の帰国難民化が危ぶまれる事態も生じました。これについては、全日空の協力と、ミャンマー政府の理解の下、帰国便の運航が認められたため、事なきを得ましたが、本年十二月現在

も、国際商業便は運航されておらず、ミャンマーへの渡航は難しい状況が続いています。

本年夏頃には、デルタ株によるコロナ第三波がミャンマーを襲ったことで、医療崩壊、酸素不足等が生じ、多くの感染者・犠牲者が生じましたし、主力産業である縫製業等経済も大きなダメージを受けました。

昨年来、このような新型コロナウイルス感染症の流行や政変等の事態が発生しており、運輸関係の担当者として、邦人の退避等に欠かせない日本との間の航空路線・空港関連情報の収集・発信や、在留邦人・日系企業の生命線となる特別便の調整等の業務の重要性が増しています。

4. さいごに

現在は、コロナも一定の落ち着きを見せており、表面上、ヤンゴンの市民生活も普通の生活に戻っています。

ミャンマーの方は本当に親日で、心根の優しい方が多いです。

一刻も早く状況が落ち着き、笑顔溢れるミャンマーに戻ることを願ってやみません。

※本稿は、筆者の個人的見解を記したものであり、所属組織の公式見解ではありません。



カヤン族（いわゆる首長族）の方々と筆者